

株主メモ

- **事業年度** 毎年1月1日から12月31日まで
- **定時株主総会** 3月
- **基準日**
 定時株主総会 12月31日
 期末配当金
 中間配当金 6月30日
 (中間配当を実施する場合)
 その他 必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
- **株主名簿管理人**
 特別口座の口座管理機関
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 郵送先 〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- **単元株式数** 100株
- **公告の方法** 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。公告掲載URL
https://www.tok.co.jp/company/public_notice.html
- **上場取引所** 株式会社東京証券取引所 市場第一部
- **証券コード** 4186

(注) 2017年6月28日開催の定時株主総会において、定款の変更について承認され上記内容のように変更されています。



【ご注意】

1. 株主様の住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。なお、株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますと配当金をお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

【株式に関するお手続きについて】

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取・買増請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定（注） 	特別口座の 口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	株主名簿 管理人 手続き用紙のご請求方法 ○ご請求 電話 0120-232-711 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード https://www.tr.mufg.jp/daikou/

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」はお選びいただけません。

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	株主名簿 管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。



第89期 報告書

2018年1月1日～2018年12月31日



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

本年1月1日付をもって、阿久津郁夫が取締役会長に就任し、後任として私が取締役社長に就任することになりました。

当社グループの事業環境は、次世代移動通信システム「5G」の普及にともなう大きな変化を迎えようとしております。そのような変化に私たちは「お客様の期待に化学で応える会社」として、「5G」、「IoT」、そしてこれらに誘発される各種イノベーションから生まれるビジネスチャンスに積極果敢に挑んでまいります。その具体的な戦略として、新たな3カ年の経営指針で

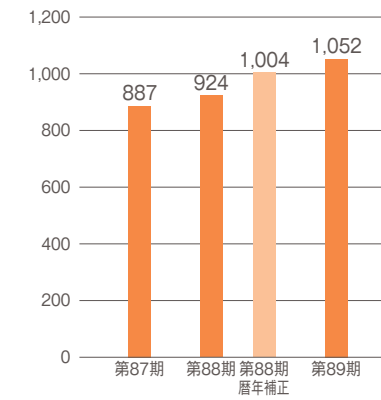
ある「tok中期計画2021」を本年より始動させ、この計画を達成していく過程で、当社グループのブランド力向上と製品シェア拡大を目指してまいります。

皆様の期待に化学で応える「世界で信頼される企業グループ」を実現させ、業績の更なる向上、企業価値の拡大を推進し、すべてのステークホルダーの皆様が当社グループに魅力を感じご満足いただけるように、私たちはこれからも挑戦し続けてまいります。所存でございます。

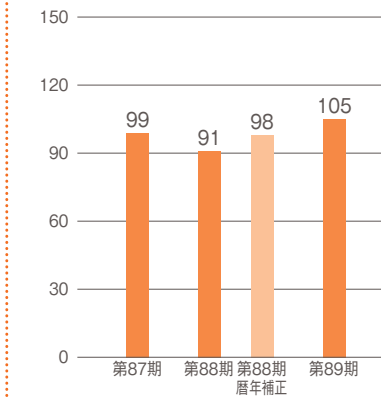
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

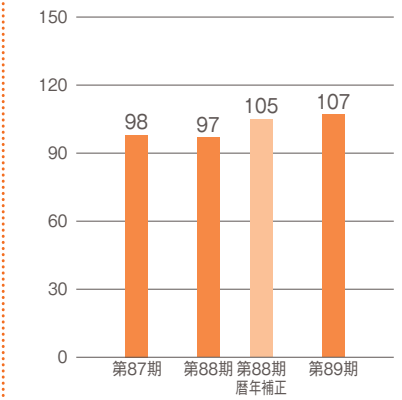
●売上高 (単位: 億円)



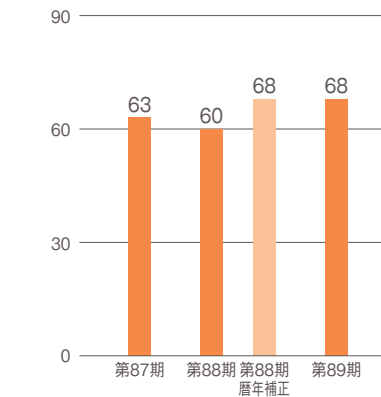
●営業利益 (単位: 億円)



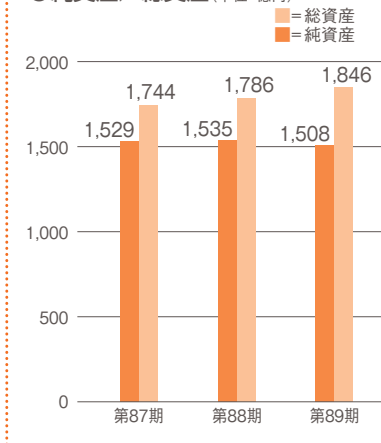
●経常利益 (単位: 億円)



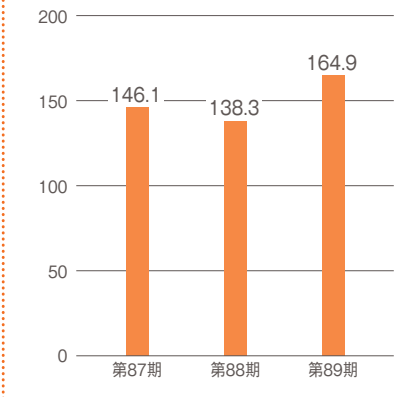
●親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 億円)



●純資産/総資産 (単位: 億円)



●1株当たり当期純利益 (単位: 円)



決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更したため、第88期につきましては2017年4月1日から2017年12月31日までの9カ月間の変則決算となります。
第88期暦年補正は、第88期の実績を当年度と同一期間に調整したものであります。

● 第89期の経営成績

増収増益

当期の売上高は、1,052億77百万円(前年同一期間比4.8%増)となりました。

利益面におきましては、営業利益が105億5百万円(同6.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は為替差損益の悪化、税効果会計による特殊要因の影響等により、68億75百万円(同0.1%減)となりました。

● 第89期の事業展開

材料事業が好調に推移

- ▶ 半導体用フォトレジストと高密度実装材料の売上増加
- ▶ 高純度化学薬品の売上が大幅に増加
- ▶ EUV(極端紫外線)フォトレジストの販売を開始

半導体用フォトレジストは、旺盛な半導体メモリ需要に支えられアジア・日本地域を中心にKrF(フッ化クリプトン)レジストや高密度実装材料等が引き続き順調に推

移いたしました。また、高純度化学薬品は、アジア地域において大手ユーザーの最先端プロセス製造ラインの立上げが進んだことを受けて堅調に推移いたしました。

また、次世代の半導体加工技術として有力視されているEUVを用いた半導体製造プロセスも、量産が目前に迫っており、当社のEUVフォトレジストの販売も開始しております。

● 半導体用フォトレジストの地域別売上構成

地域別売上構成に大きな変化なし

当期の半導体用フォトレジストは、アジア・日本地域向けの販売が順調に推移し、その中でアジア地域の売上が約6割をしめております。地域別構成比としましては、各地域の増減が小幅にとどまったため、前年同一期間と比較し大きな変化はありませんでした。

進行期は、すべての地域において需要の増加を予想しております。特に日本地域は、更なる市場拡大が見込まれる3D-NANDフラッシュメモリ向け製品の販

売数量の増加を見込んでおります。

● 研究開発費と設備投資額

当期の設備投資につきましては、将来を担う新規事業に繋がる技術開発や新たな価値の創出を目的とした国内におけるオープンイノベーション施設の新設、さらに、実用化が迫るEUVフォトレジストの生産設備の増強を実施いたしました。また、国内外において高度な品質が求められる最先端の微細化プロセスに適応した生産設備の増強にも積極的な投資を行っております。

進行期につきましては、事業ポートフォリオの変革の一環として、危険物対応のスーパークリーンルームを備えた研究開発棟の新設を進めるほか、国内外の生産拠点において事業拡大に向けた生産ラインの増設等を予定しております。

研究開発費につきましては、国内外の研究開発拠点で引き続き最先端プロセスにおけるシェア獲得や、新規事業の早期上市に向けた研究開発に注力いたしました。

● 第90期の見通し

売上は増加、利益は為替や経費の増加の影響を受け前期比同水準を予想

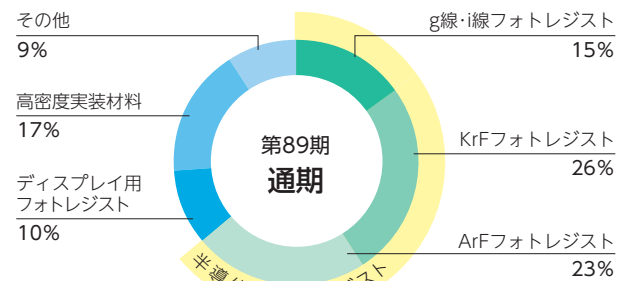
売上高

材料事業は、最先端メモリの生産が引き続き高水準で推移するなかで、半導体用フォトレジストや高純度化学薬品の販売量がアジア、日本、北米地域などで増加するほか、装置事業におきましても、ウエハハンドリングシステム「ゼロニュートン®」、半導体製造装置、フレキシブルディスプレイ製造用装置の売上増加により、増収を計画しております。

利益

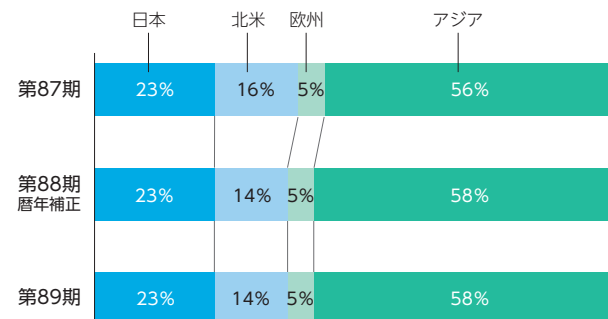
材料事業は、エレクトロニクス機能材料や高純度化学薬品が順調に販売量を伸ばす見込みですが、円高や、材料事業の経費増加の影響を受けて前期比同水準となる予想です。一方で装置事業は、売上増加による収益改善を予想しております。

エレクトロニクス機能材料の種類別売上構成



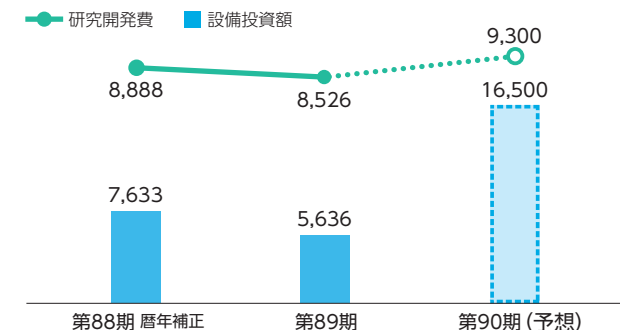
(注) 高密度実装材料：半導体パッケージ用フォトレジスト材料、MEMS材料
EUVフォトレジストはその他に区分

半導体用フォトレジストの地域別売上構成



※決算期変更に伴い、第88期暦年補正との比較になります。

研究開発費／設備投資額



※決算期変更に伴い、第88期暦年補正との比較になります。

業績予想概要(通期)

	第90期(予想)	
	金額	増減率
売上高	111,600	6.0%増
営業利益	10,500	0.1%減
経常利益	10,800	0.6%増
親会社株主に帰属する当期純利益	7,200	4.7%増

tok 中期計画2021

新たに「tok中期計画2021」(第90～92期)を策定いたしましたので、お知らせいたします。

経営ビジョン

高付加価値製品による感動(満足できる性能、コスト、品質)を通じて、世界で信頼される企業グループを目指す。

全社目標

TOKグループがやるべきニッチな市場を開拓する

全社戦略

- 顧客の声を的確に捉え、迅速に応え、顧客とのパイプを、より太く、より強いものとする
- マーケティングを強化し、顧客の価値創造プロセスへの理解を深め、新たな価値創造に結び付ける
- 自ら調べ、自ら判断し、自ら行動できる人材を強化する
- tok 経営基盤を強化する

tok中期計画2021のポイント

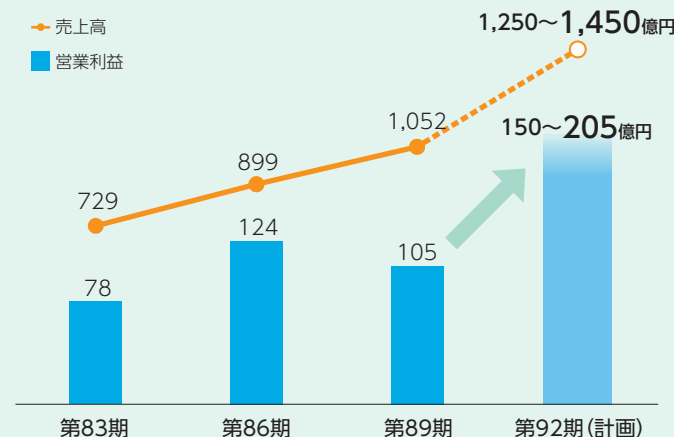
- 事業ポートフォリオの変革を強化**
 - 「5G・IoT&Innovation」*に求められる技術開発にチャレンジ
- 成長軌道への回帰**
 - 営業利益目標: 150億円～205億円(2021年12月期)
- バランスシートマネジメントの強化、新たな配当方針の導入**
 - 連結純資産配当率(DOE) 3.5%を目処とする新たな配当方針
 - 株主還元策として自己株式の取得についても弾力的に対処する

*「5G・IoT&Innovation」とは、第5世代移動通信システムの特長である高速・超低遅延時間・超多数接続を活かしたIoT等の実用化、高度化を意味します。

売上高・営業利益の計画

(単位: 億円)

成長軌道への回帰を果たす



前中期計画である「tok中期計画2018」(第87～89期)期間においては、売上高1,200億円、営業利益150億円を目指してまいりましたが、売上、利益とも伸び悩む結果になりました。これは、前中期計画の定性目標の一つとして「事業ポートフォリオの変革」を掲げていたものの、引き続き既存事業を中心とする売上構成である事が主な要因であります。3D-NAND用KrFレジスト、半導体パッケージレジストや高純度化学薬品等の売上増加といった成果もありましたが、反省点も多い3年間でした。

これらを踏まえ、新たに策定した「tok中期計画2021」では、TOKグループを成長軌道へ回帰させるために4つの全社戦略を掲げ、「5G・IoT&Innovation」に求められる技術革新を源泉に拡大するビジネスチャンスの獲得に向け、事業戦略を推進してまいります。また、全社目標に掲げた「TOKグループがやるべきニッチな市場を開拓する」を実現するために、お客様とより密接な関係を構築するとともに、マーケティングの強化に努力してまいります。

TOKが置かれている今後の事業環境と成長機会



株主還元について

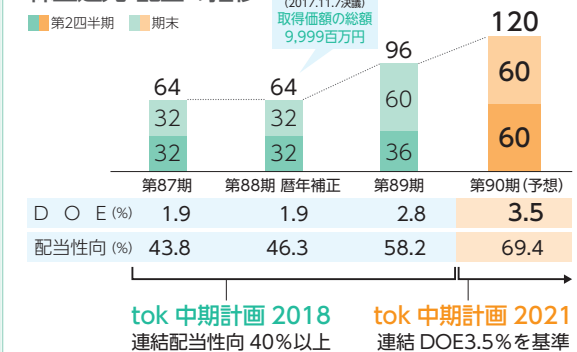
これまで株主の皆様への利益還元につきましては、現在の水準を考慮しつつ「連結配当性向40%以上の配当の継続」、「株主還元策としての自己株式の取得を弾力的に実施すること」を基本方針としておりましたが、配当に関しましては新中期計画の始動に先駆け見直しを実施、安定的かつ継続的な利益還元を実施するため、2018年12月末配当分よりDOE(連結純資産配当率) 3.5%を目処とする方針に変更いたしました。

当期末配当金に関しては、変更した方針に基づき、1株当たり60円とさせていただきます。これにより、中間配当金36円と合わせて、年間配当金は1株当たり前期(2017年12月期)64円から32円増配の96円といたしました。

次期(2019年12月期)の配当金につきましては、中間(6月30日を基準日)、期末(12月31日を基準日)ともに60円とし、年間配当金は1株当たり24円増配の120円とする予定であります。

また、自己株式の取得についても弾力的に対処し、引き続き株主の皆様への利益還元強化に努めてまいります。

株主還元・配当の推移



tok 中期計画 2018 連結配当性向 40%以上
tok 中期計画 2021 連結DOE3.5%を基準

※決算期変更に伴い、第88期暦年補正との比較になります。

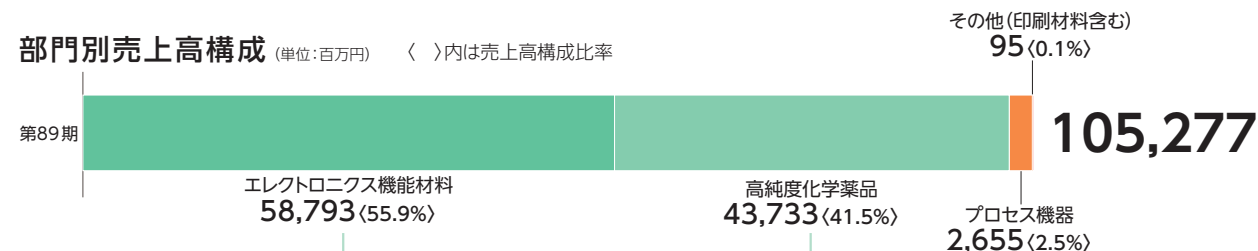
前年同一期間比で材料事業、装置事業ともに上回りました。

材料事業は、エレクトロニクス機能材料において、半導体用フォトレジストおよび高密度実装材料が順調に販売を伸ばしました。また、高純度化学薬品もアジア向けに堅調に推移したため、売上高は、前年同一期間を上回りました。

一方装置事業は、三次元実装分野では、引き続き市場規模の拡大に力強さを欠いていることから苦戦を強いられましたが、その他の半導体製造分野向けで販売を伸ばしたため、売上高は前年同一期間を上回りました。

※1 第88期は決算期変更のため、国内4-12月の9ヵ月、海外1-12月の12ヵ月となります。
 ※2 第88期暦年補正は、第88期の実績を当年度と同一期間に調整したものになります。

部門別売上高構成 (単位:百万円) ()内は売上高構成比率

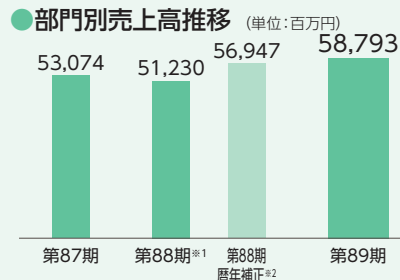


材料事業

エレクトロニクス機能材料部門



半導体用フォトレジスト



売上高
58,793百万円

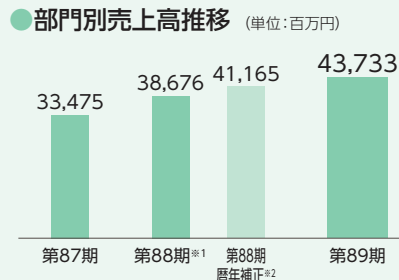
前年同一期間比3.2%増

半導体用フォトレジストにおいては、半導体市場における三次元メモリの継続的な拡大に加え、最先端メモリの量産が本格化したため、KrFフォトレジストがアジア地域や日本向けを中心に出荷数量が増加いたしました。またユーザーニーズを的確に捉えた研究開発・営業活動が奏功し、半導体パッケージ用フォトレジストの販売も伸びました。

高純度化学薬品部門



フォトレジスト付属薬品



売上高
43,733百万円

前年同一期間比6.2%増

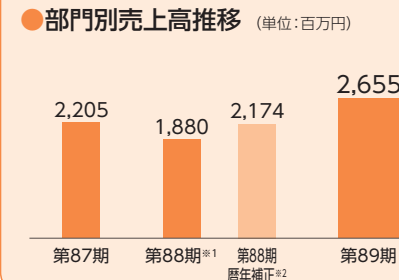
半導体用フォトレジスト付属薬品は、アジア地域の旺盛な需要に伴い堅調に推移いたしました。地域別では台湾の大手ユーザーの最先端プロセス製造ラインの稼働が前年を上回ったことに加え、北米向けにおいても、次世代半導体製造プロセス向けに新製品が採用されたことで出荷量が増加したため、売上高は前年同一期間を上回りました。

装置事業

プロセス機器部門



ゼロニュートン®用 ウエハ貼付装置「TWMシリーズ」



売上高
2,655百万円

前年同一期間比22.1%増

ウエハハンドリングシステム「ゼロニュートン®」は、データサーバーや高性能スマートフォンなど高付加価値製品向けの新規半導体製造用実績を重ねているものの、汎用製品への適応が引き続き限定されているため、苦戦を強いられました。一方、半導体製造装置は、ユーザーにおける設備増強投資の恩恵を受け売上が増加いたしました。

連結損益計算書の概要

損益の状況

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	前期 2017年4月1日から 2017年12月31日まで
売上高 PICK UP ①	105,277	92,411
売上原価	71,896	63,805
売上総利益	33,380	28,606
販売費及び一般管理費	22,875	19,411
営業利益 PICK UP ②	10,505	9,194
営業外収益	1,071	1,412
営業外費用	842	886
経常利益	10,734	9,720
特別利益	64	196
特別損失	985	423
税金等調整前当期純利益	9,814	9,492
法人税、住民税及び事業税	2,141	2,140
法人税等調整額	△187	348
非支配株主に帰属する当期純利益	984	996
親会社株主に帰属する当期純利益 PICK UP ③	6,875	6,007

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しています。



より詳しい情報につきましては、当社のホームページ <https://www.tok.co.jp/> をご覧ください。

PICK UP

①売上高

材料・装置の両事業ともに増収となったことから、前年同一期間*(1,004億22百万円)を上回りました。

②営業利益

高純度化学薬品は原油高に伴う原料価格の高騰の影響を受けたものの、下期に半導体用フォトレジストや高密度実装材料の売上が伸びたことにより前年同一期間*(98億78百万円)を上回りました。

③親会社株主に帰属する当期純利益

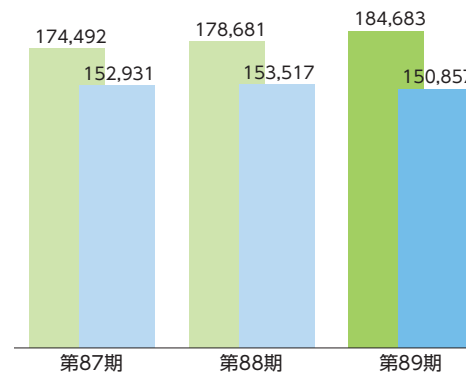
営業利益の増加はあったものの、減損損失や税効果会計による特殊要因の影響等により、前年同一期間*(68億85百万円)を下回りました。

連結貸借対照表の概要

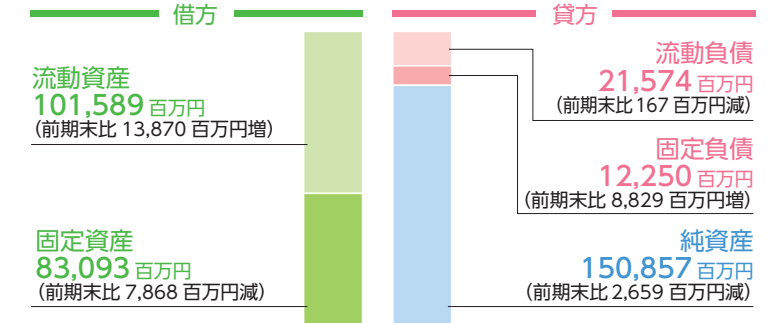
資産の状況

自己資本比率 **78.0%**

総資産・純資産の推移 (単位:百万円)



▶第89期



資産の部

- ・現金及び預金の増加
- ・投資有価証券の減少

負債・純資産の部

- ・長期借入金の増加
- ・配当の支払いによる減少
- ・自己株式取得による減少
- ・未払金の減少

連結キャッシュ・フローの概要

連結キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは増加

税金等調整前当期純利益や、減価償却費の増加。

投資活動によるキャッシュ・フローは減少

有形固定資産の取得による減少。

財務活動によるキャッシュ・フローは増加

長期借入による収入による増加。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2018年1月1日から 2018年12月31日まで	前期 2017年4月1日から 2017年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,311	10,162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,013	△5,993
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,333	△10,673
現金及び現金同等物に係る換算差額	△741	557
現金及び現金同等物の増減額	9,889	△5,945
現金及び現金同等物の期首残高	29,961	35,907
現金及び現金同等物の期末残高	39,851	29,961

※記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更したため、前期につきましては2017年4月1日から2017年12月31日までの9カ月間の変則決算となります。
※前年同一期間は、前期の実績を当年度と同一期間に調整したものであります。

最先端領域 EUVフォトレジスト

TOKが提供する高品質・高純度な半導体フォトレジストや半導体用フォトレジスト付属薬品は、人々の暮らしが便利で快適になることにつながる半導体チップの小型化、高性能化に貢献しております。

この半導体製造工程に大きな変化が訪れています。これまで微細化の壁に直面し、技術的に困難だとされていた回路線幅10nmを下回る7nm半導体チップの量産が始まろうとしており、この最先端の半導体チップ製造工程には、今までと異なる光源“EUV”（極端紫外線）を使用したプロセスが量産に適応されようとしています。

TOKは、EUV光源を使用するプロセスにおいても、お客

様の高い要求水準に応えたフォトレジストの開発に成功し、お客様に採用されております。今後も、世の中の発展に貢献できる製品を通じた、新たな価値創造に挑戦し続けてまいります。

詳しい事業戦略は、アニュアルレポート2017/12を参照してください。

https://www.tok.co.jp/content/download/4396/74292/file/annual_1712jp.pdf



TOKのCSR活動

当社グループは、事業活動を通じたCSR活動を軸に、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進しています。



相模事業所新研究開発棟の完成イメージ

事業活動面では、新事業の創出を含む新たな企業価値の創造をめざし、当社グループの国内研究開発拠点である相模事業所の再構築を進めています。

一方で地域貢献活動としての『トンボ池観察会』や、環境保護活動として『間伐作業』にも参加しています。加えて当期は個人投資家の皆様との対話の場所として『個人

投資家説明会』を、全国8都市（札幌、宇都宮、さいたま、東京、川崎、平塚、名古屋、大阪）で開催いたしました。

今後も様々なステークホルダーの皆様の高い満足を得ていただけるような企業グループを目指し、活動を推進してまいります。最新情報、詳細情報は当社ホームページやCSRレポートに記載されています。



間伐作業



個人投資家説明会

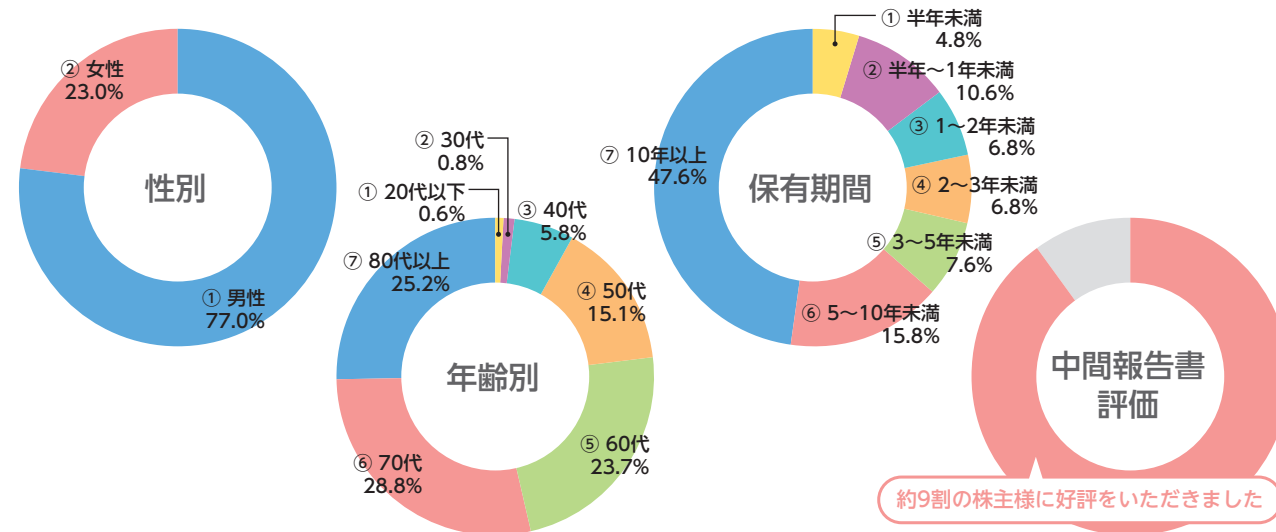
<https://www.tok.co.jp/content/download/4360/73996/file/all.pdf>



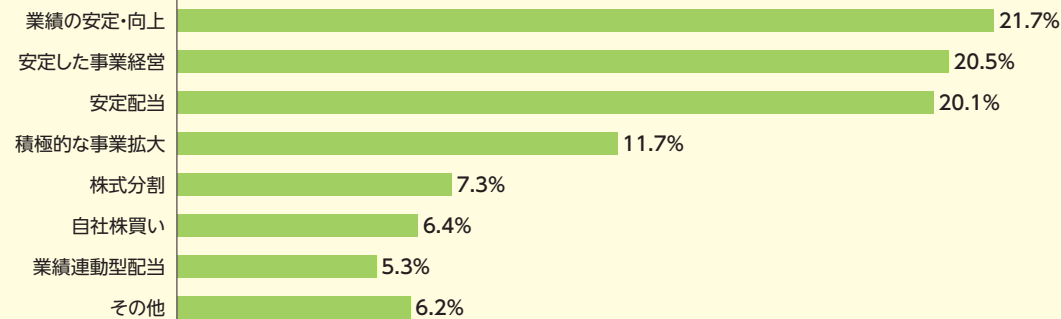
株主様アンケート 集計結果のご報告

第89期中間報告書に同封したはがきを通じて、株主の皆様にはアンケートを実施いたしました。たくさんの株主様よりご回答いただき誠にありがとうございました。頂戴しましたご意見の一部ではございますが、アンケート結果をご紹介しますことができます。

実施期間：2018年8月31日～2018年10月1日 返信数：530通



当社に期待すること (複数回答)



株主の皆様からの貴重なご意見を参考にさせていただき、分かりやすい報告書の作成やIR活動の充実に努めてまいります。

会社の概況 (2018年12月31日現在)

Corporate Data

会社概要

社名 東京応化工業株式会社
TOKYO OHKA KOGYO CO., LTD.
設立 1940年10月25日
資本金 14,640,448,000円
従業員数 1,673名 (連結)
(当社グループから当社グループ外への出向者および嘱託者を除く)
本社所在地 〒211-0012
神奈川県川崎市中原区中丸子150番地
電話044(435)3000 (代表)

東京応化工業グループ

[海外子会社]

TOKYO OHKA KOGYO AMERICA, INC.
台湾東應化股份有限公司
長春應化(常熟)有限公司
Tokyo Ohka Kogyo Europe B.V.
TOK尖端材料株式会社

[国内子会社]

熊谷応化株式会社
ティーオーケーエンジニアリング株式会社
ティーオーケーテクノサービス株式会社
オーカサービス株式会社

役員 (2019年3月28日現在)

取締役および監査役

代表取締役会長	阿久津 郁 夫
代表取締役社長	種 市 順 昭
取締役	佐 藤 晴 俊
取締役	水 木 國 雄
取締役	徳 竹 信 生
取締役	山 田 敬 一
取締役	栗 本 弘 嗣
取締役	関 口 典 子
常勤監査役	藤 下 一
監査役	深 田 一 政
監査役	高 橋 浩 一 郎
監査役	竹 内 伸 行

(注) 1. 取締役栗本弘嗣氏、取締役関口典子氏は、社外取締役です。
2. 監査役深田一政、監査役高橋浩一郎および監査役竹内伸行の各氏は、社外監査役です。

執行役員

※ 執行役員社長	種 市 順 昭
※ 専務執行役員 開発本部長	佐 藤 晴 俊
専務執行役員 経理財務本部長	柴 村 洋 一
専務執行役員 経営企画本部長	萩 原 嘉 男
※ 常務執行役員 総務本部長	水 木 國 雄
常務執行役員 台湾東應化股份有限公司 董事長兼總經理	入 野 浩 一
※ 執行役員 材料事業本部長	徳 竹 信 生
※ 執行役員 営業本部長	山 田 敬 一
執行役員 TOK尖端材料株式会社 代表理事社長	張 俊
執行役員 開発本部副本部長	佐 藤 和 史
執行役員 材料事業本部副本部長	村 上 裕 一
執行役員 新事業開発本部長	土 井 宏 介
執行役員 プロセス機器事業本部長	本 川 司
執行役員 営業本部副本部長	渡 邊 直 樹

(注) ※印を付した執行役員は、取締役を兼務しています。

株式の概況 (2018年12月31日現在)

Stock Information

株式の状況

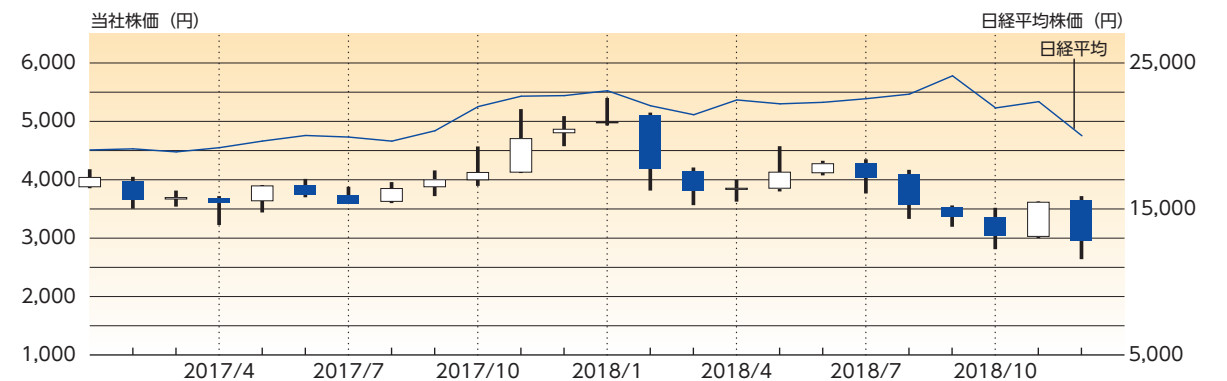
発行可能株式総数 197,000,000株
発行済株式の総数 45,100,000株
(自己株式3,436,262株を含む)
株主数 5,840名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	3,101	7.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,759	6.62
明治安田生命保険相互会社	1,826	4.38
MLPFS CUSTODY ACCOUNT	1,469	3.53
株式会社三菱UFJ銀行	1,207	2.90
日立化成株式会社	1,069	2.57
株式会社横浜銀行	1,026	2.46
公益財団法人東京応化科学技術振興財団	984	2.36
三菱UFJ信託銀行株式会社	953	2.29
三菱UFJキャピタル株式会社	860	2.06

※1. 当社は、自己株式を3,436千株保有しておりますが、上記大株主から除いております。
※2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いた株式数(41,663,738株)を基準に算出しております。

株価の推移



所有者別株式分布状況

